

レッド・ルーレット (その2)

稲宮 健一

前回デズモンド・シャム(著者)とこの本に主役である妻ホイットニー・デュアンが温家宝の妻、張おばさんと昵懇であったことを書いた。張おばさんは新しいことに挑戦する事業欲を持ち、実務経験が豊かだった。ホイットニーはこの点を見通して自分の事業に役立てた。張おばさんは総理から情報や支援を得ることなく事業を行ったが、実際は総理の威光で案件が進むことも事実であった。

事業収益に関して暗黙の口約束があつて、利益の三〇%は張おばさんが、七〇%をホイットニーが受け取った。この経緯は書類に残さなかった。ホイットニー夫婦は最初、保険会社の株の新規割り当てで大きな資金を手にした。そして、これらの資金を基にして、北京首都国際空港に隣接する五六万㎡の土地に倉庫、貨物ターミナル、オフィス棟などの一大ターミナル施設の経営者となった。この施設の設計、建設などハードウェアの推進は夫が担当し、煩雑な役所との許認可は所謂「関係」を駆使し妻が担当した。妻は「関係」を取り仕切るスリルの醍醐味を味わい、資金も管理した。後にこの点で二人の間で亀裂が生じ、最終的に離婚に至った。

夫婦にとって決定的な事件は、二〇一二年一〇月の「ニューヨーク・タイムズ」に温家宝家族の所有する莫大な資産、約三〇億ドルがスッパ抜かれたことだ。記事にはホイットニーの名前も載っていた。張おばさんは自分の名義をホイットニーに変えるなど火消しに奔走した。そして、きつと誰かが自分たちの家族を壊そうとしている言った。それが習近平と薄熙来の間の権力闘争であることが分かった。その後習近平家族にも同様な疑惑が明るみに出てきたので、温家宝や習近平の記事は党によって伏せられ、この貶めるための記事は西側の陰謀として伏せられた。

二〇一七年八月ホイットニーと共有しているマンションで、彼女に会ったのが最後で、失踪してしまった。習近平の反腐敗キャンペーンでは何千人と言う人が拘束された。